



『私の人生を変えた日本』

スヌノヴァ サリマ (ウズベキスタン)

みなさん、ウズベキスタンという国はどちらにあるかごぞんじですか？

私は日本と言う国があることを初めて知ったのは4歳ぐらいでした。ある日お昼ごろ大きな車で服のきじを売る人が来て、きんじょの人たちといっしょに私の母もそのきじを買いに行きました。母が家に帰って来たとき私は「どうしてみんな 同じきじをかいましたか」とききました。母は「これは“ヤポンスキイ”と言うきじですよ」ととてもにんきがあるともしました。「ヤポンスキイ」の意味は「日本のきじ」という意味です。

「日本はどこにありますか」と私が聞いたら、「日本はたいようがのぼるところにありますよ。日本にはあたまがよい人々が住んでいる」といきました。そういえば私の国では、子どもたちが何かいいことをしていたら、ほめる時「あなたはあたまがよいですね、日本人みたいですね」と言うのです。このようにして、私は日本という国を知り、いつか行ってみたいなと思いました。

大学にゆうがくしてから私は第二外国語として日本語をえらびました。理由は日本語には漢字があるからです。

私は自分の力をためしてみようと日本語をえらびました。もし私は世界で一番でむずかしいと言われている日本語を勉強することができたら、生きている内にどんなこんなことがおきても、のりこえることができると思ったからです。中国人のみなさまにとって漢字はどうぜんですが、私にとって難しい漢字は、けしょうをしているじょせいのようにきれいにみえます。おぼえても、おぼえても忘れませんが、でも好きです。

日本語を勉強してから、日本人のかそくのようなすばらしい友だちができました。今山梨に住んでいる友人もその中の一人です。彼女のご主人は去年がんの告知をされました。でも人生をあきらめずにさいごまで充実した時間を送ろうと明るく頑張っている生きています。ウズベク人のばあいそう言ったことがおきたらすぐにあきらめて何もやる気がなくなってしまふ人が多いですが、日本人はすごいと思いました。日本語を勉強したおかげでそんな人たちに会って私の人生観も変わりました。

今、私は日本を第2のふるさとのように感じています。

日本語を勉強して本当に良かったと思います。



『勉強仕方の一つ』

チェカルディン ミハイロ（ウクライナ）

皆様、おはようございます。ちょうど1年前に、私はこの部屋の後ろでスピーチを聞きました。今年は皆さまの前でスピーカーの立場になりました。そこから、ここまで歩いてきたんです。すごい進歩でしょう。

私はミーシャと申します。去年の4月に日本語を学ぶために、ウクライナという東ヨーロッパの一番大きくて、自然豊かで綺麗な女性が多い国から参りました。

皆さん、日本人とかけて、割り箸とときます。その心は？ たくさん「き」を使うことです。やはり、日本語には「気」を使った言葉、山ほどあります。皆さんはご存知だと思いますけれども、元気、病气、気がきく、気が重い、気が軽い、桜の木はちょっと違いますね。この「気」という言葉は、日本人の思いやりとか、日本人の考え方だと思いますので、大事な言葉でしか使ってないと思います。

日本人にとっては、「気を配る」ということは、大切なことの一つです。私には、最初から「気を配る」ということを理解するのは結構難しかったです。でも日本語が上達するに従って、だんだん「気を配る」の意味を分かってきました。しかし能力が足りなかったとか、ちゃんと理解しなかったとか、頑張りすぎて、失敗してしまったことがあります。

ある日私は、目上の人たちと焼肉に行きました。自分は一番若くて、お金も払わないし、働かなきゃと思いました。そして先輩に「うん大丈夫、俺は自分でやくから、いいよ」と何度も言われましたが、私は正しいと思って、「僕はやります」と相手に押し付けました。次の日に、「これはちょっとやりすぎじゃないのか？あまり良くないので、気をつけた方がいい」と他の先輩に注意されました。あの時に、「穴があったら、入りたい」と思いました。しかし、自分の失敗で、自分のことだけではなく、相手の気持ちとか、相手のことを考えるのは、いかに大切か分かってきました。

結果として、この失敗のお陰で二つのことを学びました。一つ目は、考えるのは大事です。いつでも、どこでも、こうしたほうがいいのか、相手はどう思っているか、考えるのは大事です。そして、失敗してもいいということもわかりました。若いので、失敗して、何が悪かったか、反省して、同じ失敗、二度としないように、しても全然構わないと思います。そして、たくさん失敗したり、経験になったり、頑張っていきたいと思います。



『日本語とベトナム語の面白い比較』

グエン アン チャ (ベトナム)

皆さん、こんにちは。私は、NGUYEN ANH TRA と申します。ベトナムのホーチミン出身です。

私は日本に来る前、6ヶ月間日本語を勉強していました。日本に来て、1年半経ちます。約二年間日本語を勉強して来ました。

日本語を勉強する前、日本語とベトナム語は何の共通点もないと思っていました。勉強している中で、日本語とベトナム語の似ている言葉を見つけました。いくつか似ている言葉を紹介したいと思います。

例えば、日本語の「注意」は、ベトナム語でも chú ý “チュウイ” と発音し、意味も同じです。これは、どうでしょう？ベトナム語に ý kiến イケンという言葉があります。日本語の「意見」という意味です。発音も同じですね。「天才」は、ベトナム語で thiên tài “チエンタイ” と発音します。意味も同じです。

ベトナム語と日本語には、多くの似ている言葉があります。

昔、ベトナム語も漢字で表現していました。その後、ローマ字で表現するようになりました。ベトナムの学校では、<漢越>という授業があります。この授業は、漢字の訓読みと音読みを勉強することと似ています。

ベトナム人は、日本語を勉強する時に、例えば<意>と<見>のそれぞれ持つ意味を、漢字を見て理解します。そして、「意見」という熟語の意味を理解します。だから、日本語を速く理解できます。

ベトナムは、中国の影響が強かったため、漢字に由来する単語が6、7割をしめています。日本語も漢字を基にしているのでベトナム語とよく似ています。

新しい言語を覚えることはとても大変でしたが、日本語とは多くの共通点があり、とても親しみやすかったです。そして、日本に来て、いろんな人と話をするようになったのは本当に素晴らしいことでした。

自分の思いを伝えたり相手の思いを聞いたり、文化の違いや民族の違いなどがあっても、より深く人と通じ合うことができます。

縁あってせっかく日本に来ましたので、もっともっと、互いの文化を知り、沢山の友達と話し、これからの自分の人生を豊かなものにしていきたいと思います。



『私が好きな葛飾の四季』

クォン ソヒ（韓国）

皆さん、こんにちは。私は韓国出身のソヒと言います。東京で暮らし始めて3年になりますが、年を重ねるごとに東京の新しい姿や魅力を発見しています。特に私たちが住んでいる葛飾区は、東京と言えれば思い浮かぶ現代的な姿も、昔ながらの下町のイメージも両方持っている、とても魅力的なところだと思います。今日は、その葛飾区の綺麗な場所を皆さんとお話しできればと思います。

秋風が吹いて、空が高く見えるこの頃、既に紅葉は楽しめましたか？秋が深まったら私は水元公園に行きます。自転車に乗って水辺を走っていると、水面に映った綺麗な秋の空に目を奪われ、つい立ち止まって写真を撮らずにはられません。読書の秋なので、途中でどこかのベンチに座り、本を読み始めてもいいでしょう。ただ、そろそろ寒い風が吹くので、暖かい服を着て、風邪に気をつけてください。

もう少し気温が下がり、木枯らしが吹いたらこたつから離れたくない季節がやってきます。それでも頑張って体を起こし、柴又に向かいます。柴又は寅さんの街で有名ですが、その一方、美味しいスイーツや和菓子がいっぱいある街でもあります。帝釈天参道を散歩しながら食べ歩きすると、太るのは辛いですが満腹感で幸せな冬のひと時を送ることができます。柴又はいろいろと魅力をもった下町ですが、そこに行ったら、必ず美味しいものを味わってください。

そして、みんなが待ちに待った春です。花見の季節になったら葛飾区役所の前で花見大会をして、家族や友達と花見を楽しみますね。特に、私はこの時期の夜桜が大好きです。亀有のさくら通りには古くて立派な桜の木が並んでいて、夜風に桜が落ちている風景を見ていると、一人で見るのはもったいないと思っちゃいますので、ぜひ大切な人と楽しんでください。

最後に夏がやって来ます。祭りの前に夏を飾るのは花菖蒲です。堀切菖蒲園には江戸時代の庶民たちも花菖蒲を見に訪れたと言うほど、綺麗で凜とした紫の花が咲いています。花菖蒲が散って、もう少し暑くなると盆踊りの祭りが始まります。屋台で焼きそばを食べたり、金魚すくいなどを楽しむと、暑い夏も笑いながら過ごせます。

これからも東京で時間を過ごして行くと思いますが、またいろんな場所を知り、楽しみながら日本への理解を深めて行きたいと思います。皆さんの大好きな場所があったら紹介してください。一緒に一瞬一瞬を楽しみましょう。



『来日で変わった僕の考え方』

エンフジャルガル ボルドフ（モンゴル）

私は現在、英語を学んでいる留学生です。今日、この機会があって皆さんに自分の意見を話せるのを嬉しく感じております。それでは、僕のスピーチをお聞きください。

誰かがいつもとは全く違うなと感じたことがありますか？もしかして、すべての人々がふりをしていたら…それは大丈夫なのか!?と感じたことがありますか。

ここからは、これについて僕がなにを考えるのかを話していきたいと思います。聞いたあとにきっと自分とは違うふりをするのがぜんぜん意味のないことというのを少しでもわかるんじゃないかなと期待しています。

ではその1。過去の私

学生の頃は時間の大切さを知らずに無駄遣いばかりしてました。あっちこっち遊びに行ったり飲んだり勉強サボったり…けれどもこれはもう過去です。二度と戻らない。

しかし、今の私は前とは全く違います。海外へ初めて行き、すべてから離れたとき、直面することに一人で対応するしかありませんでした。時間のことや勉強のことや病気にならないことなどいろいろあったけれどもできないというのはありませんでした。だんだん慣れてきたら、そんな思ったほど難しいことはありませんが、その中で一番大事だと思ったのは、今のしゃべってる言葉でした。できないといけないという思いが強くて強くて…今覚えているのは初めてこの言葉でスムーズに話せたときの快感が最高でした。もし海外へ行かなかったら、こんな最高の気持ちを感じることはできなかったと思います。

では、その2。その後の私

色々あったこと数年間ですごく変わったのは自分ってどんな人間か、なにに向いてるのかという考えです。自分らしくいないと誰になるのだ。いつもなんかのふりをする、笑ったり褒めたり謝ったり、それらが私っていうのですか？そうではありませんでした。代わりに私に何ができるのかを探したり、もしできないと思ったらどうにかしてそれをできるようにするという思いが大事であるのがわかりました。

あることわざで「人事を尽くし、天命を待つ」というのがあります。世の中、人それぞれの短所や長所があります。それに合わせて、自分たちを見つけてほしいという思いで私のスピーチを終わらせたいと思います。



『桜の花見について』

よう ね (中国)
楊 寧

みなさん、こんにちは。私は楊寧と申します。出身は中国の西安です。

西安は中国の歴史上、最も多くの王朝の都となったところです。中国文明の発祥地として「世界四大文明古都」の一つと認められています。西安には有名な場所で兵馬俑があります。また有名人では西遊記の玄奘三蔵の出身地でもあり、中国古代四大美人の楊玉環（楊貴妃）も有名です。みなさんはもし時間あれば一度西安に遊びに来てください。それでは、今日発表したいのは桜の花見についてです。

桜は日本の代表的な花です。春になると日本人たちは家族で集まって花見に行きます。みんなで1本の桜の木の下に座って、おいしい料理を食べながら美しい桜を見ます。中国では日本の花見のように桜の木の下に座って食べたり、飲んだりしないのでとてもめずらしく、たのしそうと思いました。

私の家の近くの道の両側に桜の木が並んでいて、とてもきれいです。何日か観察してみると数日前の桜はまだつぼみのような姿をしていましたが、数日後には満開になりました。花見をしていると突然暖かい風が吹いて、きれいな桜吹雪がおきました。うわぁ！なんと美しい桜だろうと思いました。

来年の春は、私もお弁当を持って日本の友だちと一緒にお花見を体験したいと思います。



『ウズベキスタンと日本』

ムザファロフ マカスドジョン (ウズベキスタン)

わたしは Muzafarov Makhsudjon でございます。わたしは ことしの4月にウズベキスタンから 日本にまいりました。くにに いたとき、日本に きょうみがあったので 日本にりゅうがくすることにしました。わたしは いま東京よつぎきょういくがくいん というがっこうで にほんごを まなんでいます。きょうは わたしのくにと日本では ぶんかのちがうところが たくさんあります。じつは くににいたときは せいかつやぶんかは わたしのくにと あまりかわらないと おもっていました。日本に いままですんで すこし分かってきましたが でも 日本にすんでみて、かなりちがうということが わかってきました。日本はウズベキスタンより はってんしているという事です。日本ではぎじゅつが たかいです。たとえば コンビニです。日本のコンビニでは いえのやちんや けいたいのりょうきんの しはらい、たっきゅうびんを おくったりうけたりすることなど なんでもできて とても便利です。ウズベキスタンでは おかねのしはらいややっきゅうびんは ゆうびんきょくでしかできません。わたしのくにでも このようなことができるようになったら とてもべんりだとおもいます。

わたしのくにには とっても れきしてきなくにのひとつです。れきしてきたたてものが たくさんあります。これは ちゅうおうアジアのえいゆう アミール・ティムールによってつくられたたてものです。日本のたてもんとは ぶんいきがぜんぜんちがいますが とてもうつくしいです。

いまは ウズベキスタンも いろいろはってんしてきています。いろいろなくにと ぼうえきをしていて、めんかのゆしゅつは せかいで3位です。またいろいろなぎじゅつを ゆにゆうしています。たとえば アメリカの CM とていけいして くるまをつくっています。ウズベキスタンは、ぶっかは日本よりやすくて かいものしやすいです。日本にきたとき、やさいやくだものが たかくてびっくりしました。わたしは いままだ 日本語をべんきょうして1ねんになりませんが、さらいねん 日本語がっこうをそつぎょうしたら、日本のせんもんがっこうにはいろいろとおもっています。それまでに日本語をたくさんべんきょうしておかなければなりません。日本人とはなせば 日本語がじょうずになりますから さいきん みせで アルバイトしながら かならず日本人とはなすようにしています。せんもんがっこうをそつぎょうしたら 日本でITのかいしゃで はたらこうとおもっています。そのあとで かぞくを日本につれてきたいとおもっています。そのために いまいっしょうけんめい 日本語をべんきょうするつもりです。



『学校のみんな』

ろう しん
盧 辰 (中国)

ぼくは日本へきて2年たちました。いま 友だちと学校でなかよくあそんでいます。だが、一つのことでこまっています。それはいじめです。むかし、ぼくの名前はまちがえてろうちんでした。みんなからろうちんちんといじめられます。ぼくは、そうやって言った人にやめてと言っても、むししてくる。そして、むかしぼくの日本語の先生にそうだんをしたら、本当の名前はろうちんじゃなくて、ろうしんでした。それでろうしんにかえました。ともだちはやさしい。ぼくがなんかあったらたすけにきてくれる。だからぼくはたのしい。



『日本の生かつ』

バスネット モハン ババドール (ネパール)

みなさん こんにちは。今日ぼくは 日本の生かつについて話したいと思います。ぼくは2年半前にネパールから来ました。最初は日本語が全くわからなかったです。学校の授業も理解できませんでした。

はじめに日本とネパールの学校の違いについて話したいと思います。ネパールと日本の学校は全然違います。日本の学校は8時20分から始まりますが、ネパールの学校は10時から始まります。日本の学校は生徒が教室のそうじをしますが、ネパールの学校はそうじをする人がいます。ネパールの多くの学校は自分でお昼ご飯を用意します。そして日本のように靴をはきかえないので上ばきもありませんでした。はじめ友だちを なかなか作れなかったです。日本語の勉強も難しかったし早く起きるのもつらかったから 学校に行きたくなかったです。でも今は学校が好きになりました。なぜならば、2年生の時 卓球部に入って、友だちができて わからないことなどを教えてもらえるようになったからです。本当はバスケットボールが一番好きなスポーツですが バスケットボール部の人数が多かったので卓球部を選びました。ぼくの通っていたネパールの学校には音楽の授業がなかったので 今日本の学校の音楽の授業はとても楽しいです。ネパールの英語の授業と比べて 日本の英語の授業はとても簡単です。今ぼくは中学校3年生なので 来年の受験に向けていっしょうめんめい勉強しています。ぼくにとって受験勉強は難しいですけど、志望校に受かるようにがんばって勉強しています。みんなもお祈りしててください。